

2020年の夏

全国での新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が解



名古屋北労働基準監督署長 柳澤 隆文 47

除された5月下旬に、ショッピングセンターに買い物に出かけた。普段は混んでいる平面駐車場ではなく、立体駐車場に車を入れるのだが、この日は、入場ゲートで駐車カー

ドを受け取り、前方を見ると、空きスペースがたくさんあったので、そのまま平面駐車場に車を停めて店舗に行った。食料品売り場などで買い物をして、荷物をカートに載せて、駐車場に向かった。平面駐車場に出るところで、ふと目に留まったものがあつた。「ミニトマトの苗木」である。そこは園芸コーナーになっており、様々な花や種、園芸用品などがたくさん並べられていた。なぜかその苗木が気に入り、赤い実のなるものを2本、黄色い実のなるものを2本買って帰ることにした。家に帰り、随分昔に花を植えていたもののその後は全く使うことがなかった植木鉢に4本の苗木を移し替え、支柱も立てて紐で結んだ。そして水を撒こうとした時、「あつ、じょうろがない」と気付いた。家の中に何か適当なものはないかと探した。すると、本来ならこの日ショッピングセンターのリサイクルコーナーに

持って行くはずであつた2リットル入りの空きペットボトルが残っていたので、それに水を入れて撒いた。それから、ペットボトルを使った朝晩の水やりが日課になった。

6月の半ばを過ぎたところに、と実を一つ取り、そのまま口に入れてみた。ちよつと皮が固く、少し酸っぱいとは思つたが、初めて育ててみたことを考えれば、全然オーケーの出来であつた。

に彩り良くのせたりしたが、一番気に入つた食べ方が、バスタである。ミニトマトとツナをオリブオイルと塩、こしようで味付けして、茹でて冷水でしめた細い0.9ミリのカップペリ



赤く実つたミニトマト

持っていくはずであつた2リットル入りの空きペットボトルが残っていたので、それに水を入れて撒いた。それから、ペットボトルを使った朝晩の水やりが日課になった。



収穫したミニトマトを使った冷製バスタ

でき、そして赤くなるもの、黄色くなるものに育つていった。その結果、水撒きに加えて、ミニトマトを食べることも日課の一つとなつた。そのまま食べたほか、冷やし中華

コロナによりオリンピック・パラリンピックが見られなかつた2020年の夏は、小学校の宿題でアサガオの観察記録をつけたことを思い出した。夏であつた。

最高気温が30度を下回るようになった今は、プランターのハーブに水を撒くのが日課となっている。